



診断力強化トレーニング 2 What's your diagnosis?

松村理司 監修

酒見英太 編

京都 GIM カンファレンス 執筆

● B5・頁 256 2015 年 08 月

定価：本体 3,800 円＋税

[ISBN978-4-260-02169-2] 医学書院刊

この本は 1998 年から現在もお継続して開催されている京都 GIM カンファレンスのなかから珠玉のケースを収集した第 2 弾である。今年 200 回記念を迎えた京都 GIM カンファレンスは毎回 100 人以上もの医師が参加し、立見が出るほどの人気を博しているという。難解なレアケースが多く、ほとんどの医学生や初期研修医には太刀打ちすることは至難であり、後期研修医以上の中堅やベテラン医師あたりがターゲット読者層であろう。

ケースは全て実際の症例。病歴や身体所見がリアル情報として提示される。この本のケースのうち、全ての疾患を診断したことがある医師は世界広しといえども皆無であろう。そう断言できる理由は、この本のなかに「ティアニー先生も初めて」のケースが掲載されていることや、世界で 2 例目のケースなども収載されているからだ。

しかしながら、本邦の市中病院で実際に遭遇したケースについて習熟することは大変重要である。疫学的・遺伝的な影響があるために、日本人に特有な疾患や日本でよく使用される薬剤に関連した病態は、日本で診療活動を行っているわれわれ自身もまた遭遇する可能性があるからだ。そういう意味では、「欧米で出版された症例集」のみで学習していると、日本における最新の臨床現場の情報について思わぬ「知識欠如」を持ったまま臨床を行うという危険性がある。日本で総合内科を標榜する医師全員に、本書を読んでおくことをお勧めする。

本書の最終診断内容を吟味してみると、薬剤の副作用が関連するケースが 18 例もあった。88 ケースのうち約 20% となる。一般には総合内科入院ケースの原因中 5~10% が薬剤の副作用である。本書でのこの高頻度は、診断困難例では薬剤性疾患がいかに多いかということを示している。

「臨床推論のよいトレーニング方法は何か」という質問をされることが評者自身もよくある。日常診療をまじめに継続し、多数のケースを経験しながら、優秀な指導医の意見を積極的に聞いていくことはもちろんである。でもさらにもっと飛躍して早くエキスパートになりたい、という希望をもつ若い医師は本書を利用するとよい。具体的には、病歴、身体所見、簡単な検査が提示されているページを読んだら一度本書を閉じて、脳内シミュレーションで自分自身の鑑別診断を考えることだ。あるいは、寝る前にそこまで読んで、解答編は翌日に読む、というのもよい。人間の脳は、問題が与えられると、意識しなくても（睡眠中でも）自動的に考えているということが脳科学研究で明らかになっているのだ。

本書に収載されている 88 のリアル・ジャパン・ケースの曝露は、1 人の臨床医の実臨床経験では得られない。評者も含め、京都 GIM カンファレンスに参加することのできなかった医師たちへ、これらの貴重な症例を提示してくださった先生方、ならびに監修者の松村理司先生、編集者の酒見英太先生に敬意を表する次第である。